

検証結果の報告について

令和5年12月
厚生労働省

これまでの検証結果の報告

第一種健康診断特例区域のあり方等の検討に向けて、気象・土壌WG及び健康影響WGにおいて、一定の科学的な知見が得られるよう、可能な限りの検証を進めた結果は以下のとおり。

① 原爆由来の放射性物質を確認する課題（気象・土壌WG）

気象シミュレーション

- 一定程度、広島における「黒い雨」の輸送・沈着状況についての再現が実現できたが、計算結果の不確実性は相当程度大きく、**領域判定を気象モデル計算によって行うことは、現在の技術をもって依然困難性を伴うことが明らかとなった。**

土壌調査

- その地点が戦後未改変であつてかつ「黒い雨」が実際に降ったのであれば、「黒い雨」が降った領域を判別可能な指標は存在し得ることが示されたが、未改変地点を探索してその地点での土壌試料を採取すること自体が本質的に極めて挑戦的な作業であることから、**精度の高い領域の推定は困難であると結論された。**

原爆投下時の気象状況等に関する文献調査、祈念館における体験記調査等

- 過去に米国で収集・解析された諸データを含む報告書等により、爆発モデルの検討・検証（爆発雲高度の検討）、最近の気象モデル（化学輸送モデル）による原爆雲再現の試み、核分裂生成物の粒径分布などに関する情報や知見が得られ、気象シミュレーション、土壌調査の検討促進に寄与した。

② 健康影響が生じているか確認する課題（健康影響WG）

疾患罹患状況等調査

- 未指定地域群（広島県・市による拡大要望区域）において、**黒い雨を浴びたことによる放射線被ばくの直接の健康被害を確認することは困難であったものの、指定地域群と同等ないしそれ以上の精神的な影響があったことが示唆された。**

広島赤十字・原爆病院におけるカルテ調査

- 雨に曝露した記載がある入市被爆者とそれ以外の入市被爆者との間で、被爆直後の症状や被爆40年以降の疾病状況を解析した結果、**雨に曝露の有無による健康影響の違いは報告されなかった。**